海づくり

広大な山に植樹して豊かな海を次代につなぐ、官民一体の大集団

森は海のために、海は森のために。

●漁民の森

海と森の仲睦まじい“長編物語”の始まり。題して『漁民の森』。でも、まだまだこれからが幕開けの段階―。

「昔から豊かな海を育てるのは森だといわれ、川南の海も力を取り戻せるよう、数年前に平田川の上流に約六万本の広葉樹を植えました。この森が漁民の森です」

『漁民の森』の“シナリオづくり”に深くかかわる農林水産課では、こう前置きしながら、「以来、ここが本当に豊かな森になるよう、たくさんの町民参加で下草を刈るなど手入れし、森と親しむ活動を行っています」。

平成十年に植樹して以来、毎年、秋に行う整備活動は三百人を越す盛況ぶり。二十ヘクタールもの山は徐々に力を蓄えている。森からも海からも喜ぶ声が聞こえてきそうだ。

漁業関係のメンバーに話を聞いてみた。

「下草を刈るのはけっこうタイヘン。でも海に生きる私たちにとって絶対やっていかなくてはならないこと」、「サカナを育てる森をつくろう、という活動ですから、何とも意義深い」

ふたりは異口同音に声を揃える。もともと漁協と行政が足並みを揃え、森林組合が技術協力するという形でスタートした活動。当時、川南の海は海藻の生息地が減少するなど沿岸漁業を取り巻く環境が厳しくなってきていた。“海づくりは森づくり”が漁業の未来には欠かせないというわけだ。それにしても森のどこに豊かな海を育む力があるのだろう。

森づくりのカギは植えられている広葉樹にあった。スギやヒノキなど針葉樹に比べ、根が地中深くまで伸び、保水力に優れる。しかも植樹したのは腐葉土をつくりやすい落葉樹が七割。当然、染み込んだ雨水には、魚介類のエサとなるプランクトンや海藻類を育てる栄養分がたっぷり含まれる。この嬉しい水が川に運ばれ、海に注ぐというわけ。

「ヤマザクラ、ケヤキ、クヌギ、イチョウ、イチイガシなど十種類以上の川南に合うものを選びました。全部葉っぱが落ちるのも寂しいから、常緑樹も二割程度、あとは用材として使えるかどうかも、選択基準に入ってましたね」（農林水産課）

順調にいって、この森がチカラを発揮するまでには数十年の歳月がかかる。地道な活動が続くことになるが―。

「みんなで食べる豚汁とおにぎりがサイコー」「ひと汗かいて眺める景色も素晴らしい」といった楽しみももれなく付いてきて、きっと、毎年大勢の人たちが参加することだろう。豚汁を作った食生活改善推進員のひとりも「最初の年、食事の道具を抱えて登るのは大変だったけど、いい思い出」というように、それぞれ心に残る何かを携えて山を下りる。そんな思い出こそが、海と森と人との幸せな関係を描く物語なのかもしれない。

地域振興

五十年以上も住みよい地域づくりに貢献してきた婦人団体

一人の百歩より百人の一歩。

“気をつけてネ!!”と書かれた黄色の横断幕。春と秋の交通安全週間に、目に留めた覚えのある人も多いはず。黄色いハッピ姿のお母さんたちが、声を張り上げて頑張っている。川南町地域婦人連絡協議会（以下、婦協）の面々だ。歴史は相当古い。住みやすい地域づくりを目指す全国組織であるが、川南に誕生したのは昭和二十五年のこと。半世紀が過ぎた。まさしく町づくりを側面から支えてきた五十年といっていい。現在二百三十五名の会員（平成十五年一月末）。五十代、六十代が八割を占める。

四十年近くも関わってきた前会長の河野和子さんは、昔を懐かしそうに話す。「まだ高校を卒業した頃かな。母に連れられて公民館に通ったことが思い出されます。当時は川南だけでも会員は千人はいたでしょう。みなさん、子供をおぶって参加する姿が印象的でした」。河野さんのお母さんが一生懸命活動していた時代は、食生活の改善や主婦の健康増進、産児制限、農村家庭の民主化などが大きなテーマだったようだ。

「もう、焼酎をやめて寝なさい」というサイレンが午後十時に鳴ったという、ちょっと信じられない話も、昭和二十七年に婦協が勝ち取った成果だという。男たちの飲み足らないという声が聞こえるようだ。

「やはりその時代ならではの問題に取り組んできましたからね。今は交通安全、環境問題、青少年の育成、女性自身の学習などが切実なテーマ。そして何より仲間づくりが一番大切です。一人の百歩より百人の一歩ですから」。こう話す会長の黒木和子さんも十年以上のベテラン。役員二十二名とともに最前線で頑張る。月一回の定例会では、前月の反省と翌月の活動を決定。

交通安全キャンペーンや子育て一時預かり所の開設、子どもとお年寄りの交流支援、子育て相談、伊倉浜海岸の清掃、“無事カエル”手づくりマスコットの製作と配布などなど、その活動範囲は広く、時間はいくらあっても足りないという。

しかも、婦協は川南町各種婦人団体連絡協議会のまとめ役も務める。会長は婦協の代表が兼務。川南の様々な婦人団体がスクラムを組んで活動するときにはさらに大きな力を発揮する。女性議員や女性農業委員の誕生に成果を残した。

婦協、JA尾鈴川南女性部、川南町漁協婦人部、川南町商工会女性部、川南町赤十字奉仕団、民生児童委員女性の会、川南町更生保護婦人会、川南町生活学校、川南町母子寡婦福祉会の九団体が加入する。二カ月に一回定例会が開かれ、それぞれの活動報告と今後の活動要請が行われ、年に一回はみんなが足並みを揃えた活動もする。

女性の視点が限りなく活かされる町は、きっと未来も人にやさしい町である、といって過言ではないはずだ。